

児童 5年男子1名 6年男子4名

授業者

1 単元名

秋の遠足のことを話そう

2 単元について

【単元設定の理由】

本学級は5年生1名(A),6年生4名(B,C,D,E)の5名で構成されている。

本学級に在籍する子どもたちの実態について、学習活動の様子や日常観察から、次のようにとらえた。

子ども	「話すこと」にかかわる実態
A (5年)	写真を見て誰が何をしているか、単語で答えることができる。オウム返しが多いが、選択肢を与えると答えられることがある。
B (6年)	話の順序が前後したり、単語だけだったり不完全な文章であることは多いが、話すことへの意欲は高い。
C (6年)	体験を話すことについてあまり積極的ではないが、体験したことについて気持ちも入れながら2文程度で簡単に話すことができる。
D (6年)	人にほめられることを素直に喜び、体験したことについて話すことに意欲的である。2,3文程度で体験したこと、簡単な感想を話すことができる。質問にある程度答えたり、会話のやり取りができる。
E (6年)	質問されたことや、話すべき主題から外れてしまうことが見られるが、相手に質問したり、自分の体験を話すことに意欲的であり、敬語がしっかり話せる。

これを受けて、国語科の「話すこと」にかかわる年間目標を次のように設定した。

子ども	「話すこと」にかかわる年間目標
A (5年)	体験したことを3語文(いつ、だれが、何をした)程度で話し、感情語(うれしい、かなしい等)の言葉を話すことができる。
B (6年)	体験したこと、自分の感じたこと、思ったことを主題に沿って順序立てて3文程度で話すことができる。
C (6年)	体験したことを、相手の知りたいことや話の中心(一番伝えたいこと)を意識して5文程度で話すことができる。
D (6年)	体験したこと、自分の感じたこと、思ったことを主題に沿って順序立てて5文程度で話すことができる。
E (6年)	体験したことを、相手の知りたいことや話の中心(一番伝えたいこと)を意識して5文程度で話すことができる。

年間目標の達成に向けこれまで子どもたちは、誰かに経験したことを伝えるために、伝える内容の原稿となる視覚的台本を作成して話すことを学習してきている。その内容は伝えたい場面の写真を基に「いつ」「どこで」「何をした」といった中心となる文に様子、感想を付け加えるというものである。また、取り上げてきた体

験活動として「春の遠足(冷麺作り)」「プール開き」「陸上記録会応援」「校内合宿」などがある。それを踏まえ、本単元の目標を次のように設定した。

子ども	本単元終了時の目標
A (5年)	体験したことを3語文(いつ,だれが,何をした)程度で話し,感情語(うれしい,かなしい等)の言葉話すことができる。
	体験したことについて全文の視覚的台本の冒頭の言葉を残したものを読んで体験の内容,感想を話すことができる。
B (6年)	体験したことを「いつ どこで 何をしたか」について話し,3文以上の簡単な感想を話すことができる。
	体験したことについて全文の視覚的台本の冒頭の言葉を残したものを読んで体験の内容,感想を話すことができる。
C (6年)	体験したこと,自分の感じたこと,思ったことを主題に沿って順序立てて話すことができる。
	視覚的台本をなくして話すことができる。 キーワードのメモを見ながら体験・感想について話すことができる。
D (6年)	体験したこと,自分の感じたこと,思ったことを主題に沿って順序立てて話すことができる。
	視覚的台本をなくして話すことができる。キーワードのメモを見ながら体験・感想について話すことができる。
E (6年)	体験したことを,相手の知りたいことや話の中心(一番伝えたいこと)を意識して話すことができる。 視覚的台本をなくして話すことができる。
	視覚的台本をなくして話すことができる。キーワードのメモを見ながら体験・感想について話すことができる。

※上段「話して伝える内容」,下段「視覚的台本の活用について」

【研究にかかわって】

(1)生活単元学習と関連させた「体験の場」の工夫

本単元「秋の遠足のことを話そう」は生活単元学習「秋の遠足」について,卒業生に話して伝える学習である。9月に行う「校内合宿」では,例年卒業生を招待し交流を図っており,今年度も校内合宿に卒業生を招待し,一緒にカレーを食べたり,花火をしたりして交流を図った。そこで,かつて一緒に学習し,卒業後も交流を重ねている卒業生に,「秋の遠足」で楽しかった体験や感想についてビデオレターを使って話して伝える活動を行う。

本単元では卒業生から送られたビデオレターを動機に,学習活動を展開していく。遠足の楽しかった体験や感想を卒業生に伝える活動を通して,話すことへの意欲を高め,体験したことやその時の思いが相手に伝わる話し方,内容について学習させていきたい。

(2)視覚的台本を用いた「準備・練習の場」の工夫

前年度まで,作文指導において招待状,お礼状などの手紙を書くことを通し,「伝えたいこと」を整理して書く学習をしてきている。その際,キーワードをヒントに手紙を書き進めていた。今回の「秋の遠足」で,印象的だったことをキーワードとして取り上げながら,それをヒントに「卒業生へ伝えたいこと」をまとめていきたい。

また実態に応じた視覚的台本を見ながら,さらにキーワードを基にしながらか話して伝える練習をさせる。そしてビデオに撮影したものを見て振り返させながら,よかった点,反省点を明確にしていきたい。この練習・振り返りにより人に伝える話し方や内容について十分意識付けていきたい。

3 学習指導計画 ◎学習活動 *個のねらい

時	A (5年)	B (6年)	C (6年)	D (6年)	E (6年)
体験の場	◎生活単元学習 「秋の遠足」				
準備・練習の場	◎卒業生へ贈るビデオレターを作るために「秋の遠足」を振り返り,伝えたい場面を選択する。				
	* 伝えたい場面を一つ選択することができる。 伝えたい場面の気持ちを考えることができる。	* 伝えたい場面を一つ以上選択し,場面についての感想を話すことができる。教師と一緒にキーワードを考える。	* 伝えたい場面を一つ選択し,場面についての感想を話すことができる。	* 伝えたい場面を一つ選択し,場面についての感想を話し,キーワードを考えることができる。	* 伝えたい場面を一つ選択し,場面についての感想を話し,キーワードを考えることができる。特に伝えたいキーワードを選ぶことができる。
2 (本時)	◎卒業生に伝える内容を視覚的台本に書き,ビデオレターの撮影の練習をする。				
	* 体験したことを3語文(いつ,だれが,何をした)程度で話し,感情語(うれしい,かなしい等)の言葉を話すことができる。	* 体験したことを「いつ どこで何をしたか」について話し,3文以上の簡単な感想を話すことができる。	* 体験したことを,感じたこと,思ったことを主題に沿って順序立てて話すことができる。	* 体験したことを,感じたこと,思ったことを主題に沿って順序立てて話すことができる。	* 体験したことを,相手の知りたいことや話の中心(一番伝えたいこと)を意識して話すことができる。
発表の場	◎ビデオレターを撮影する。				
3	* 体験したことについて全文の視覚的台本の冒頭の言葉を残したものを読んで体験の内容,感想を話すことができる。	* 何も見ないで体験したこと,感想を話すことができる。	* キーワードのメモを見ながら体験・感想について話すことができる。	* キーワードのメモを見ながら体験・感想について話すことができる。	* キーワードのメモを見ながら体験・感想について話すことができる。
振り返りの場	◎卒業生からの返事を読み,伝わったことを確かめたり,伝えられた人の気持ちを考える。				
	* 卒業生の返事を読むことができる。	* 卒業生の返事を読み,卒業生に自分の体験したこと,気持ちが伝わったことを確認する。	* 卒業生の返事を読み,卒業生に自分の体験したこと,気持ちが伝わったことを確認する。 次の発表について考えることができる。	* 卒業生の返事を読み,卒業生に自分の体験したこと,気持ちが伝わったことを確認する。 次の発表について考えることができる。	* 卒業生の返事を読み,卒業生に自分の体験したこと,気持ちが伝わったことを確認する。 次の発表について考えることができる。

4 本時の学習

(1) ねらい

指導計画の2時(本時)を参照

(2) 展開→別紙

(3) 評価規準

子ども		評価規準(○) と 評価規準に至らなかった時の支援(△)
A (5年)	○	体験したことを3語文(いつ,だれが,何をした)程度で話し,感情語(うれしい,かなしい等)の言葉話すことができる。 体験したことについて全文の視覚的台本の冒頭の言葉を残したものを読んで体験の内容,感想を話すことができる。
	△	体験場面の写真や、冒頭の次の言葉をヒントに話すことができる。
B (6年)	○	体験したことを「いつ どこで 何をしたか」について話し,3文以上の簡単な感想を話すことができる。 冒頭の言葉を残した視覚的台本を見ながら,体験の内容,感想を話すことができる。
	△	体験場面の写真を見て,教師との応答しながら話すことができる
C (6年)	○	体験したこと,自分の感じたこと,思ったことを主題に沿って順序立てて話すことができる。 キーワードのメモを見ながら体験・感想について話すことができる。
	△	視覚的台本の冒頭の言葉だけ見て,それ以降の言葉を思い出し話すことができる。
D (6年)	○	体験したこと,自分の感じたこと,思ったことを主題に沿って順序立てて話すことができる。 キーワードのメモを見ながら体験・感想について話すことができる。
	△	視覚的台本の冒頭の言葉だけ見て,それ以降の言葉を思い出し話す。
E (6年)	○	体験したことを,相手の知りたいことや話の中心(一番伝えたいこと)を意識して話すことができる。 キーワードのメモを見ながら体験・感想について話すことができる。
	△	視覚的台本の冒頭の言葉だけ見て,それ以降の言葉を思い出し話すことができる。

4 (2)展開案

学習活動	◎主な学習活動 ○個の活動 ★支援				
	A (2年)	B (3年)	C (4年)	D (5年)	E (5年)
1 本時の活動の見通し (1) 前時の学習内容を確認する。 10分	◎ 前時の学習を確認し内容を発表する。 ★ 想起できるように写真などを掲示する。 ◎ 「だれ」「いつ」「どこ」「なにをした」について確かめる。 ◎ どの場面を伝えるか、その時の気持ちを発表する。 ★ 写真から場面を選択できるようにする。前時に話したいことを一人一人から聞き、内容を板書しておく 視覚的台本を書く時の手がかりにする。				
	★ 写真を手がかりに「ぼくは～しました。」の言葉を引き出していく。	★ 選んだ場面について本人の気持ちを引き出していく。	★ 何をしたか、どんな気持ちであったか引き出していく。	★ 自分の言いたいことを一緒に整理しながら話すように促す。	★ 選択した場面について詳しく書けるように引き出していく。
(2) 本時の学習内容を確認する。 5分	◎ 本時の学習することと誰に話すのかを発表する。 ★ めあてを一緒に読み、学習に集中する姿勢をつくる。 お家の人に遠足のことを話そう ★ 話す相手が想定できるように写真を用意する。				
2 視覚的台本を作る。 10分	◎ 視覚的台本に話したいことをまとめる。 ★ 写真や板書を手がかりに書く。 ★ 早く終わった児童は、自分の視覚的台本を読む練習をする。				
	○ひらがなをなぞり書きしたり、自力で書いて読む練習を教師と一緒にする。 ★視覚的台本をあらかじめ文字のなぞり書きができるように準備しておく。	○板書した言葉を手がかりに書く。助詞の使い方を意識しながら書く。 ★助詞の言葉が入る部分を○で囲み本児が意識できるようにする。	○板書した言葉を手がかりに書く。助詞の使い方も意識して書く。 ★教師と一緒に口頭作文をしながら書く文章を文節ごとに確かめる。	○写真や小見出しを基に自分の伝えたいことを書く。 ★自力で文作りができるように小見出しを提示する	○写真や板書した言葉を手がかりに自分の伝えたいことを順序よく書く。 ★書いた文を読み返し文のねじれなどないか確かめるように促す。
3 発表する。 15分	◎学習したことを発表する。発表の後にお互いのよかったことについて評価しあう。 ★ 教師が母親役になり一人一人が家庭で話す雰囲気をつくる。 ★ 視覚的台本は個々に応じて文章や文字を隠す。 ★ お互いに気付いたことを伝え合うようにしていく。教師は一人一人の話したことを評価し、次への意欲につなげるように励ます。				
4 振り返りをする。	○教師が指し示した視覚的台本の写真や絵を手がかりに話す。 ★難しい時は教師と一緒に視覚的台本を見ながら何をしたか単語で話せるようにする。教師の言葉を減らしながら自力で話せるようにしていく。	○文末の半分くらいを消した視覚的台本を見ながら話す。 ★「だれ」「いつ」など話のきっかけになる言葉を投げかけていく。 ★写真やキーワードを教師と一緒に確認し話したいことを引き出していく。	○文末を1～4文字を消した視覚的台本を見ながら話す。 ★「だれ」「いつ」など話のきっかけになる言葉を投げかけていく。 ★写真やキーワードを教師と一緒に確認し話したいことを引き出していく。	○文末を半分くらい消した視覚的台本を見ながら話す。 ★本人が話すきっかけになる言葉を提示していく。 ★写真や小見出しを教師と一緒に確認し話したいことを引き出していく。	○写真のみ残り他を消した視覚的台本を見て話すことができる。 ★本人が話すきっかけとなる言葉を提示していく。 ★写真やキーワードを教師と一緒に確認し話したいことを引き出していく。
5 家庭で話すことを確認する。 (般化) 5分	◎だれにいつ伝えるのかについて確認する。 ★伝える内容、誰に伝えるのか、伝えた相手のチェック欄のあるシートを渡し説明する。				